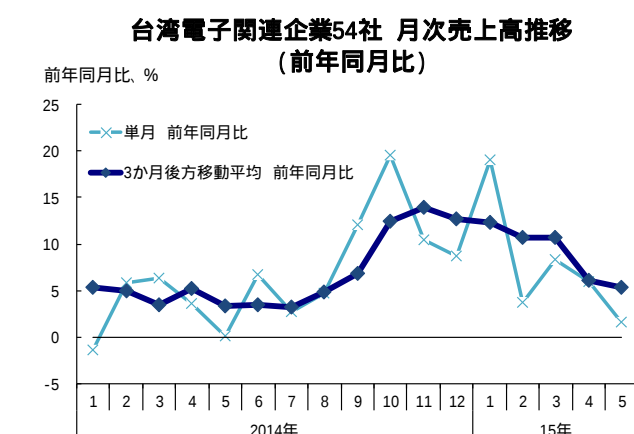


台湾電子関連企業 月次売上高（2015年5月） 中国スマートフォン向け出荷の調整が続く

○中国スマートフォン向け部品は引き続き調整局面

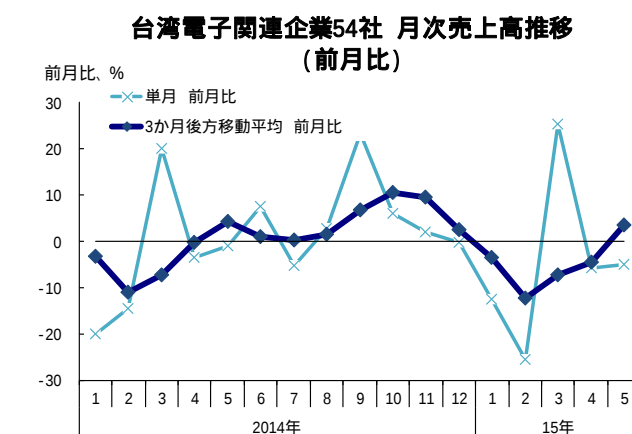
- ・世界の電子部品・デバイス市場の先行指標となる台湾の主要電子関連企業 54 社の 2015 年 5 月の売上高は、前年同月比 1.6%増（前月比 5.0%減）となった（図表 1、2）。2015 年に入ってから前年同月比の伸び率は縮小する傾向にあり、世界の電子部品・デバイス市場の回復モメンタムは鈍化している。
- ・企業別には、引き続き中国スマートフォンメーカー向けに LSI を設計するメーカー（MediaTek）の売上高が、前年同月比で大きく減少している。また、EMS（Electronics Manufacturing Service、電子機器の受託製造）や電子部品関連企業の売上高は前年同月を上回ったが、その増勢は鈍化しており回復は鈍い印象である。
- ・世界の電子部品・デバイス市場の増勢が再びが強まるのは、アップルの新モデルが立ち上がる 7～9 月期となろう。中国や韓国のスマートフォンメーカー各社の新モデルの生産は既に立ち上がっているとみられるものの、市場全体の増勢を強める規模には至っていない。特に中国メーカー向け部品については新モデルの生産が開始されているにも関わらず、前述の通り MediaTek の売上高が大きく減少しているなど、調整色が強い。現時点では、4～6 月期に中国メーカー向け部品の在庫調整が終了すると見込んでいるものの、出荷動向次第では調整が長引く可能性もあるため、今後の動向には注視したい。

図表 1 前年同月比の増勢は引き続き鈍化



注: 台湾企業54社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している電子関連の代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出。
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表 2 前月比は2か月連続のマイナス



注: 台湾企業54社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している電子関連の代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出。
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

○中国メーカー向けの LSI 設計は前年同月比 2 割減

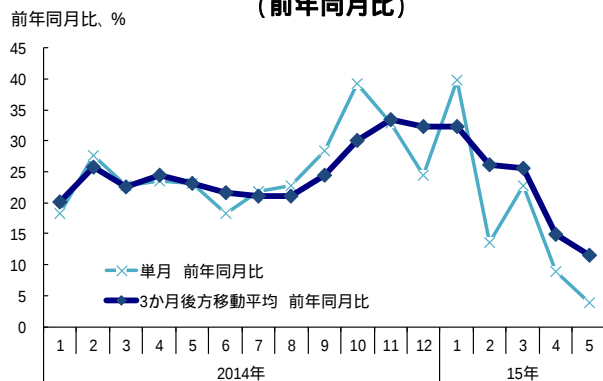
- ・半導体関連企業 12 社の 5 月の売上高は、前年同月比 3.8%増（前月比 2.9%減）となり、増勢が鈍化している（図表 3）。LSI 設計 3 社の売上高が前年同月比 18.3%減（前月比 1.5%減）となったことが、半導体全体の増勢鈍化の主要因である（図表 4）。なお、半導体前

工程 2 社の売上高は前年同月比 14.3%増（前月比 6.0%減）、後工程 3 社は同 9.7%増（同 5.7%増）、メモリ 4 社は同 16.5%減（同 5.1%減）となった。

- ・ LSI 設計 3 社でもっとも売上高構成比の高い MediaTek の 5 月の売上高は、同 20.8%減（同 1.3%増）と 2 か月連続で大幅減少した。MediaTek は中国スマートフォンメーカー向けの LSI 設計を多く手掛けるメーカーであり、同社の売上高の推移から中国スマートフォンメーカー向けの LSI で在庫調整が行われていることが分かる。
- ・ 一方、中国国内におけるスマートフォンの出荷台数の推移をみると、3 月を底に前年同月比でプラスに転じ、その増勢も強まる傾向にある（図表 5）。現時点では、4～6 月期に中国スマートフォン向け部品の在庫調整が終了し、7～9 月期には市場全体が回復に向かうと見込んでいる。ただし、今後の出荷動向によっては調整が長引く可能性もあるため、引き続きその動きに注視したい。

図表 3 半導体関連企業の増勢は鈍化

台湾半導体関連企業12社 月次売上高推移
(前年同月比)

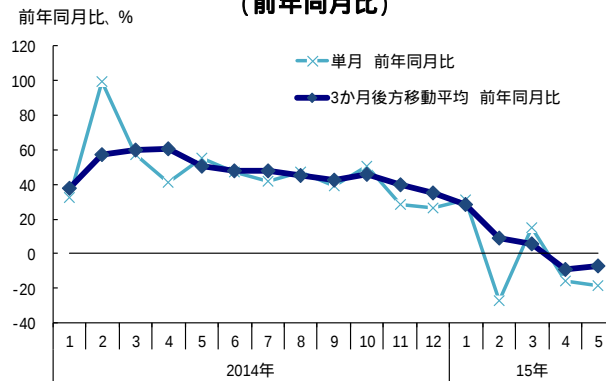


注: 台湾半導体関連企業12社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出。

出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表 4 LSI 設計はマイナス成長

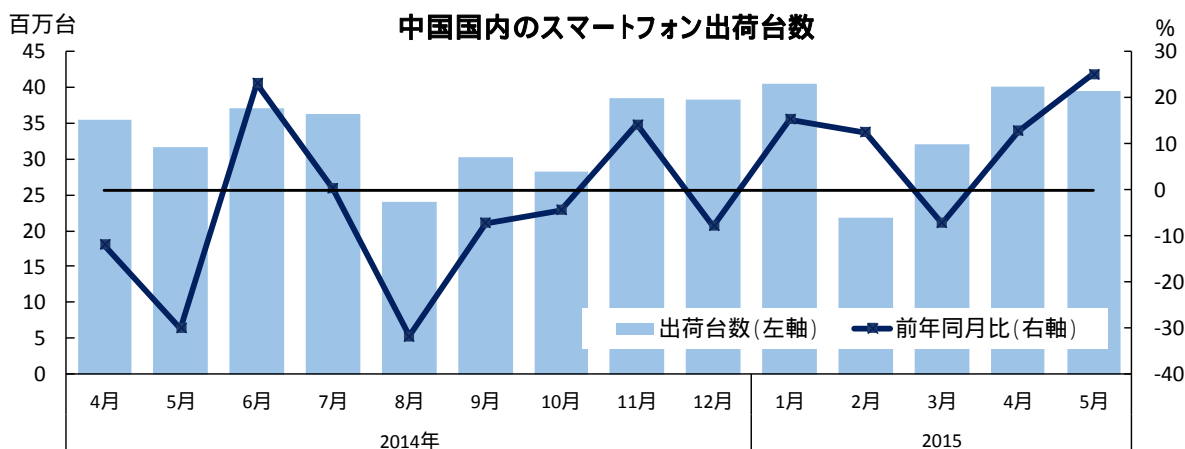
台湾LSI設計企業3社 月次売上高推移
(前年同月比)



注: 台湾LSI設計企業3社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を浜銀総合研究所が抽出。

出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表 5 中国国内のスマートフォンの出荷台数は回復の兆し

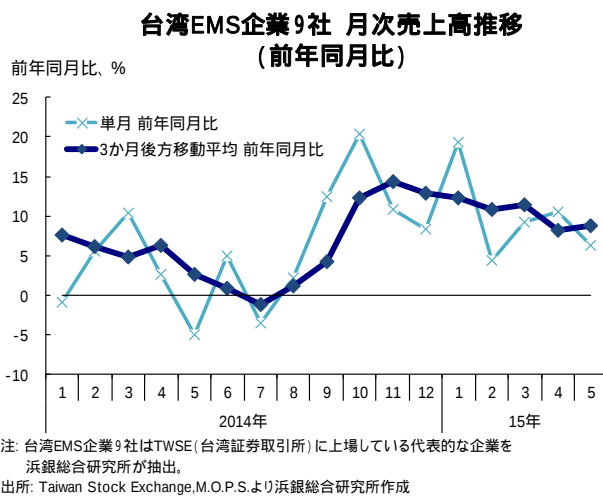


出所: 中国信息通信研究院

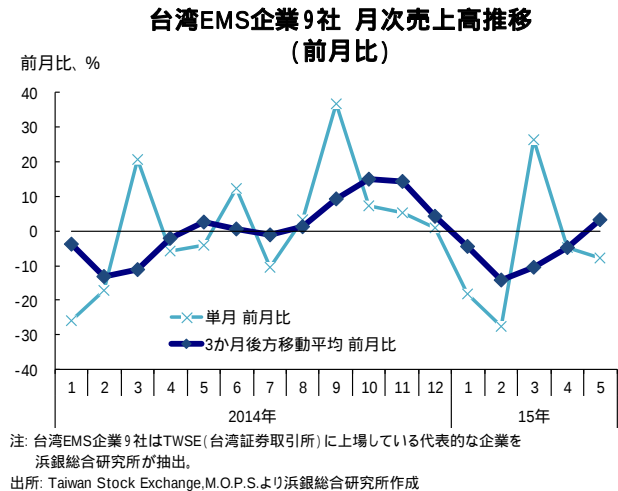
○ EMS の増勢は iPhone 6 向け出荷が終盤に向かう中で減速

- ・ EMS 9 社の 5 月の売上高は前年同月比 6.2% 増と前月よりも伸び率が縮小し、前月比では 7.8% 減と 2 か月連続でマイナスとなった（図表 6、7）。
- ・ 企業別には、アップル製品の組み立てを多く手掛ける Hon Hai と Pegatron の売上高が、それぞれ前年同月比 12.6% 増（前月比 14.4% 減）同 7.1% 増（同 9.6% 減）となり、前年同月での伸び率が低下し前月比でも 2 か月連続のマイナスとなった。スマートフォンを含む各アプリケーションの 2015 年の新モデル向けの生産は開始されているものの、売上構成比の高い iPhone 6 シリーズ向けの出荷が終盤に向かいつつあることが、増勢鈍化の背景となっている。

図表 6 EMS の前年同月比の伸び率は縮小



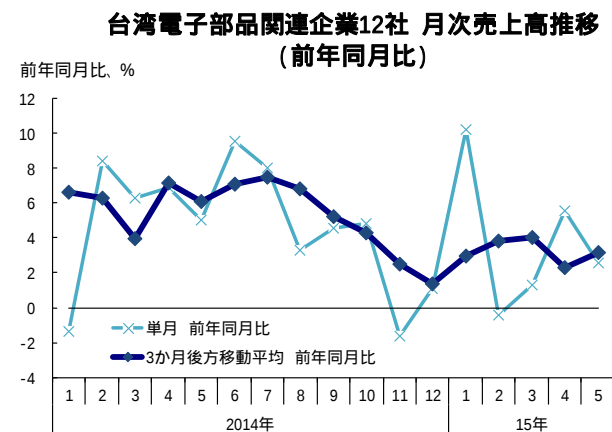
図表 7 前月比で2か月連続のマイナス



○ 電子部品、光学部品関連企業の売上高も減速傾向

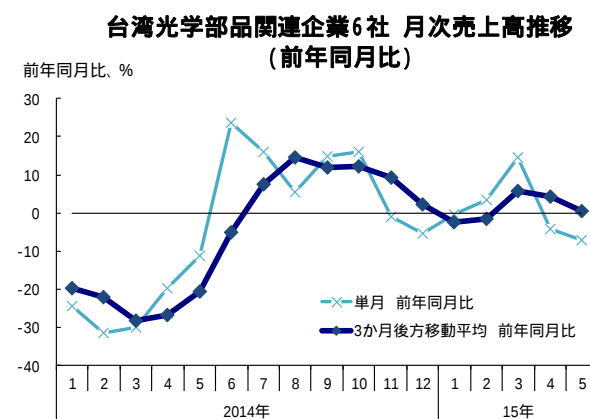
- ・ 電子部品関連企業 12 社の 5 月の売上高は前年同月比 2.5% 増（前月比 3.6% 減）となった（図表 8）。フレキシブルプリント配線板などを手掛ける Zhen Ding や金属きょう体を製造する Catcher といった一部の企業の売上高が前年同月比で 2 割以上増加したため、全体ではプラス成長となったが、その増勢は半導体関連企業や EMS と同様に鈍化している。
- ・ 一方、光学部品関連企業 6 社については、5 月の売上高が同 7.0% 減（同 4.1% 増）となった（図表 9）。前年同月比を下回るのは 2 か月連続であり、タッチパネルを手掛けるメーカーの売上高などが減少していることがこの背景となっている。なお、カメラレンズモジュールを手がける Largan Precision の売上高は、5 月も同 30.2% 増（同 3.4% 増）となっており、需給がひっ迫している部品に関しては、引き続き出荷が好調である。

図表8 電子部品の単月の伸び率は低下



注: 台湾電子部品関連企業12社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を
浜銀総合研究所が抽出。
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

図表9 光学部品は引き続きマイナス成長



注: 台湾光学部品関連企業6社はTWSE(台湾証券取引所)に上場している代表的な企業を
浜銀総合研究所が抽出。
出所: Taiwan Stock Exchange, M.O.P.S.より浜銀総合研究所作成

担当: 調査部 産業調査室 山鹿 亜紀子

TEL 045-225-2375

E-mail: yamaga@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。